



## ソウルの秋



ソウル中心部の東大門

韓国の首都ソウルは福島市とほぼ同じ緯度であり、寒暖の程度も似ているという。福島市の紅葉が美しい昨年11月に、おいしいものを求めて私はソウルを旅した。

### 飛行機の隣人

大韓航空機に乗り込み席に着いた途端、隣に座った韓国人の中年男性が英語で話しかけてきた。4日間の日本観光を終えて帰るところだという。「横浜、箱根、河口湖に行った。日本はどこに行ってもきれいだ。人も親切だ。とても気に入った。」

彼は農業関係の金融機関の支店長をしていたが、今は退職し自由な身である。62歳だというのが大変

元気で顔の色つやもいい。私の今回の韓国旅行は事前の準備が不十分で、言葉も覚えないまま出発する羽目になった。さっそく英語を介して韓国語と日本語を教え合う。短期間の旅行ではそれほど難しい言葉を必要としない。むしろ「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」程度の言葉で大抵の用は済んでしまう。

話が進むにつれ、歴史の話になった。「ナラ」は韓国語で「国」を意味すると知った。「古代の日本はあなたの国からたくさんのことを学びました。」「ペクチェ（百濟）が日本に仏教を伝えたのだ。」最後に彼は涙をこらえるように眼を細めて言った。「私たちの国は近い。とても……近い。」

空港に着陸後、私たちは互いに習った言葉で「ありがとう」と言い、固く手を握り合った。

### 仁川（インチョン）空港

飛行機は約2時間20分で仁川空港に着いた。大きな空港だと聞いていたが、確かに広い。成田と比較して相当な広さだとわかる。空港の周辺にはまだまだ十分な土地があり、これからも拡張が続いていくと予感できる。

空港から市の中心部へ向かう高速道路から、広大な建設工事現場が見えた。ガイドさんに尋ねたところ「仁川経済自由区域」の工事だという。帰国後の日本の新聞報道によれば、韓国政府はこの区域を経済特区として外国企業の誘致を推し進める方針だと伝えている。中核となる松島（ソンド）地区は東京ドーム100個分の広さで、立派なゴルフ場も造られるという。さらに仁川港の整備も進めて空港と連携し、東アジアの物流拠点とする計画が進んでいる。この国は米国やEUとの間の自由貿易協定締結に早くから取り組み、世界に向けた貿易取引により自国の経済発展を達成しようと懸命の努力をしている。

市内に近付いてくると車は漢江（ハンガン）に沿ってしばらく走った。この大河なら相当大きな

船も行き来できるだろうと思った。

### ソウルの地下鉄

地下鉄に乗ろうとホテル近くの駅に行ったが、切符の買い方がわからない。ソウルの地下鉄は東京と同じように路線が混み入っている。さらに切符販売機のような機械が何種類か並んでいるが、韓国語表示なのでまったく読めない。困っていると「日本語ガイド」という表示を付けた男性が近寄ってきて「案内しましょう」という。

彼の説明によれば、販売機の使い方は次の通りである。画面のタッチパネルにより、①「日本語」を選択すると「行き先を選んでください」と日本語で表示される。②「地図」を選択するとソウル市内の地図が表示される。③行き先の駅を選択すると「切符の種類と枚数を選んでください」と表示される。④種類と枚数を選ぶと金額が表示され、お金を入れると切符が出てくる。非常に簡単である。最低料金は1,000ウォン（約80円）で、相当遠方まで乗っても100円ほどである。

今回の旅行でショックなことがあった。生まれて初めて電車の中で若者に席を譲られたのだ。確かに歩き疲れた表情だったのかもしれない。私に席を譲った青年は年齢25歳ぐらいだろうか。



市内でも大開発が進む



地下鉄の中

きりっと引き締まった体型で、髪の毛は短く整っている。この国では男子全員に兵役の義務があることを思い出した。

### 美食体験

まずは「お粥」である。前夜のお酒で胃が疲れているときなど、消化の良いお粥はちょうど良い。事前に調べておいたお粥の専門店に入ると、メニューが出てきた。一番目立つところに「アワビのお粥」とある。家内と二人なのでもう一品は「キノコのお粥」にした。両方とも同じ値段（約800円）である。アワビとキノコが同じ値段というのも変である。「もしかして!」その通り、私は最初の朝食からアワビと松茸のお粥を食べたのである。日本の皆さんすみません。

韓国料理の名物に参鶏湯（サムゲタン）がある。鶏の内臓を取り除き、米をはじめ様々な穀物を詰めたものが熱いスープに浸った状態で出てくる。どうせなら市内で一番の名店で食べようと地図を頼りに歩き出すと、親切なおジサンが「参鶏湯ならあっちだよ」と教えてくれた。鶏の中からはいろいろなものが出てきた。栗、松の実……さらには朝鮮人参まで。これはまるで漢方薬ではないか!



松茸粥

ホテルの窓から道路を隔てた向かいに焼肉屋が見える。その店はずいぶん流行っているらしく、早い時間から次々と客がやってきて、店の前と隣の駐車場に入りきれない車が道路に並んでいる。最後の夕食は迷うことなくその店にした。韓国料理といえばカルビが有名だが、韓国の人々はむしろ豚肉を多く食べるという。それに倣い注文した黒豚の肉を、お店の人が目の前の炭火で焼いてくれる。何種類かの付け合せが小皿で出され、肉を乗せる葉っぱはお代わり自由である。肉も野菜も大変おいしかったのは言うまでもない。

こうやっておいしい料理を食べた結果、日本に帰るころ肌のつやは良くなり、私はすっかり韓国料理のファンになった。

### ソウルの若者たち

古代の文化交流に興味がある私は、国立中央博物館に行くのを楽しみにしていた。最寄りの駅で地下鉄を降り、歩き始めると博物館の方角から何やらけたたましい音楽が聞こえてきた。

それは博物館の外の広場で高校生たちのコンサートが行われているのであった。大きな階段の一番下に舞台があり、高校生たちは階段に腰掛け舞台に声援を送っている。私たちも後ろの階段に



コンサートで盛り上がる高校生たち

腰掛け、歩き疲れた足を休ませることにした。

太鼓のグループ演奏、皿回し、ロックバンド、マイケル・ジャクソンもどきのダンス……。一番前の教師と思われる審査員にお構いなく、生徒たちは大いに盛り上がっている。韓国では男女別学が普通なのだろう。男女は別々に登場し、女子のチームが登場すると私たちの目の前の男子生徒たちは大声を張り上げる。私たちも大いに楽しませてもらったが、いま日本の高校生たちにこのような楽しみはあるのだろうか。

街を行く若いお嬢さんたちは一般的にスタイルがいい。ヘルシーな料理のせいかもしれない。お化粧品にも相当気を配っているようだ。繁華街には新しいファッションビルが建ち、ブランドを品定めする女性の姿が目立つ。

### テレビ撮影所にて

ソウルから電車に乗り約1時間で水原（スウォン）に着く。ここには昔の城郭跡があり世界遺産に指定されている。駅前の観光案内から10時に観光バスが出るというので、それに間に合わせるつもりが約10分の遅刻でバスは出発してしまった。とりあえず観光案内に行き窓口の方に相談すると、「タクシーで追いかければ間に合うかもしれませ



水原の世界遺産



テレビ局の撮影セット

ん」という。彼女にタクシー乗り場まで来てもらい、運転手に説明をお願いした。結果、最初の停車地でバスに追いつき世界遺産を観光することができた。

水原観光の最後、テレビ局の撮影施設に案内された。そこには昔のソウルの街並みが再現されており、実際の撮影にも使われている。日本風の家が並んでいることに気が付きガイドさんに尋ねると、これは1950～60年代の風景だという。

水原市の現在の人口は100万人を超え、市内には高層マンションが続々建設されている。撮影所の昔の街並みの向こうにマンションが林立している。ガイドさんは「どうしても向こうの景色が映ってしまうので、デジタル作業で消しています」と笑った。

私は不思議な気持ちになった。新旧2つの景色があまりにも違いすぎるのに、この間50年ほどしか経っていない。日本に併合された歴史も、民族同士の戦争も遠い昔のことではない。

撮影所の古い街並みの向こうにスラリとそびえるマンション群が、綺麗にお化粧品をしたお嬢さんたちのように見えた。

(担当：若狭)